令和7年度 学校研究の全体像：「発問」が創り出す主体的な学び

発問の在り方
意図的・計画的な
問いのデザイン

知的好奇心を刺激する

主体的な学びへ

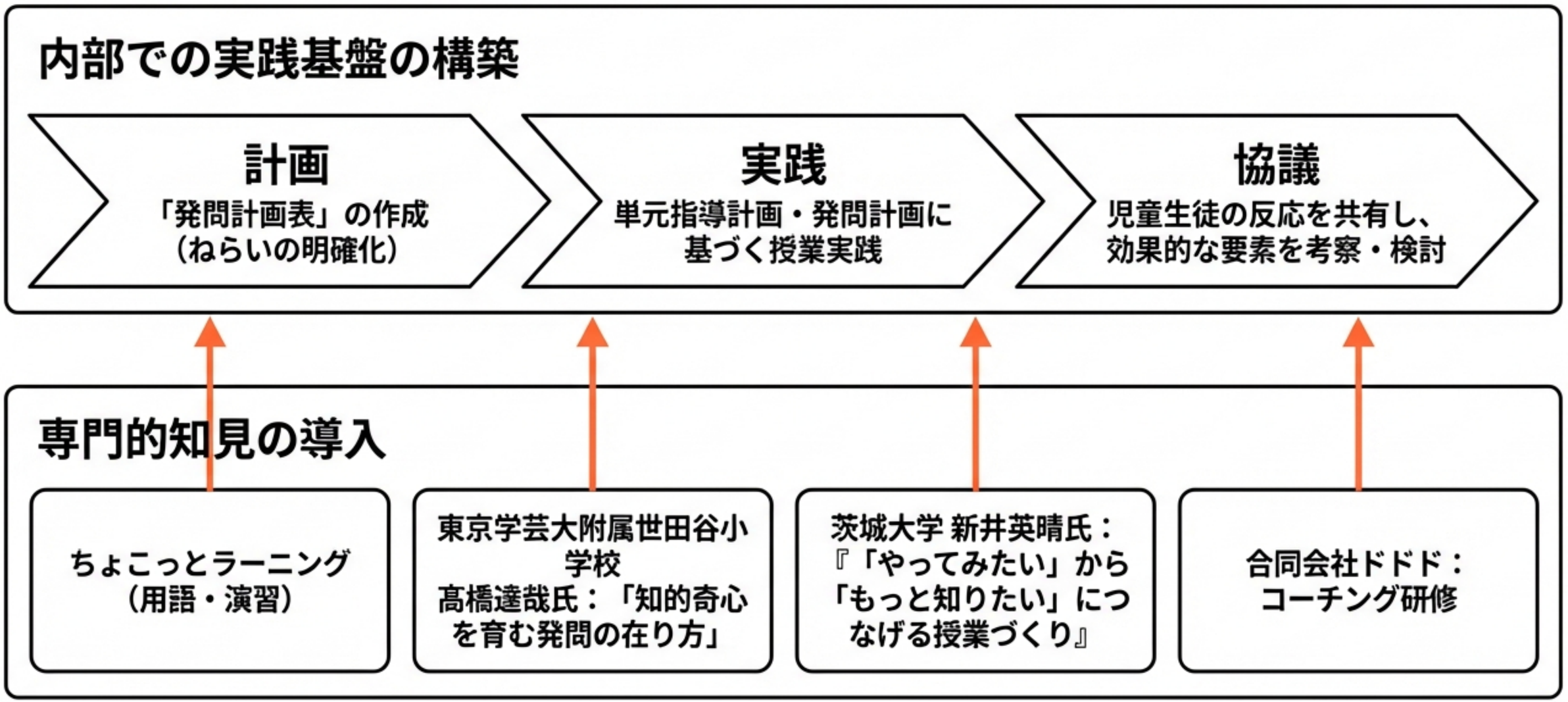
エンジン（内発的動機付け）
自ら学びに向かう原動力。
やる気が高まる。

ドリル（探求心）
背景にある原理や仕組みを理解しようと深く掘り下げる。

アンテナ（拡張性）
授業中だけでなく、日常生活の中でも自ら視点を広げて学ぶ。

NotebookLM

理論と実践の両輪：発問デザイン力の組織的向上



NotebookLM

授業実践からの3つの発見：子どもの主体性を引き出す発問の条件

段階的な発問

発達段階と論理的深掘り

発達段階（選択肢から抽象的問いへ）に応じた工夫。
「なぜそう思ったか？」と根拠を問う思考の深掘り。

必然性と揺さぶり

予想を裏切る仕掛け

予想と異なる結果の提示による知的好奇心への着火。
意図的な「間違え・情報の過不足」による動機付けの強化。

「余白」の計画的確保

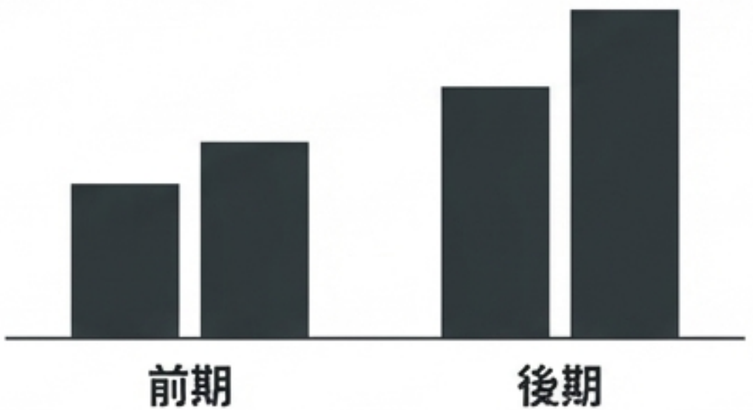
思考を広げる時間的・空間的余白

単元計画の段階からあらかじめ「余白」を組み込む。
教員が待ち、児童生徒が自ら考えを深め多様に表現する時間を担保。

NotebookLM

今年度の成果と次なる挑戦：「個別最適化」による学びの深化

今年度の成果



令和6年度保護者アンケートにおいて、「知識・技能」「思・判・表」「学びに向かう力」の各項目で肯定的な評価が向上。知的好奇心を起点としたアプローチの有効性がデータとして確認された。

来年度の展望

【目指す姿】自分なりの方法で思考を深掘りしようとする児童生徒

【研究の核】個別最適化

児童生徒一人ひとりの実態に合わせ、グルーピングや授業形態を柔軟に工夫する。今年度見出した「余白」と「待つ姿勢」を基盤に、個々にとって最適な学習環境を整える。

NotebookLM